

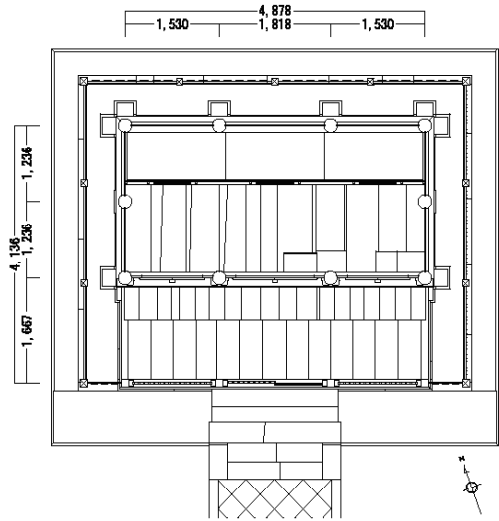
Iwashimizu-hachimangu Shrine
いわしみずはちまング
石清水八幡宮
せつしやとがのおしやほんでん
摂社狩尾社本殿

八幡市

桃山時代 慶長6年(1601)

事業期間：令和3年11月～令和7年3月（予定）

石清水八幡宮は貞観元年（859）の創建と伝え、皇室の霊廟として伊勢神宮に次ぐ天下第二に位置付けられています。また、源氏の守護神として中近世を通じて広く武家の崇敬を受け、織田信長・豊臣秀頼・徳川家光らにより社殿の造替・修理が行われました。現存の社殿の多くは、寛永8年（1631）～11年（1634）にかけて徳川家光によって造替されたもので、このうち本社を構成する10棟が国宝に、摂社狩尾社本殿を含む8棟が重要文化財に指定されています。



本殿 平面図

せつしやとがのおしやほんでん
摂社狩尾社本殿

重文

《修理中》

摂社狩尾社は、本社の西方約1キロの飛地境内に鎮座する摂社です。大己貴尊・天照大御神・天児屋根命を祀り、創建は詳らかでないですが、八幡神が男山へ勧請されたことに伴い、当地の地主神が場所を移して祀られることとなったと伝えられています。

現在の本殿は、慶長6年（1601）にお龜の方（徳川家康の側室、尾張徳川家の始祖義直の母、石清水八幡宮の社務・田中家の親戚）が本願人となって建てられたもので、石清水八幡宮に現存する最古の社殿になります。

社殿は三間社流造、檜皮葺で、正面を切石積、側背面を野面石積とする基壇上に建てられています。底部分に浜床を、身舎正面に棚を設け、庇の柱間には格子戸と竹の節欄間を立て込み、側背面に板玉垣を廻らす他にあまり類をみない当宮独自の形式の社殿です。

修理の内容

修理前は、基壇の石積に孕みや崩落が生じ、建物に著しい歪みが発生していました。また、屋根には雨漏りを生

じ、漆喰壁や塗装については経年劣化による剥落が進行していました。

そのため、今回は建物を全て解体した上で組立直す根本的な修理を行っています。なお、解体中の調査で軸部の大部分で慶長を遡る古い部材が再用されており、ほぼ規模・形式が同じ室町時代の前身建物の部材を使って建て直されていることが分かりました。また、塗装については現状の丹塗の下から古い彩色の痕が見つかり、復原して華やかな彩色に塗り直しています。



本殿 修理中 彩色施工中の様子



本殿 修理前 外観